地区広報
すいざわ
平成17年11月
No.51号
題字：水沢小学校６年　豊田　優希さん（谷町）

活気あふれるまち（地域）づくり
生き生き、のびのび体験活動！

コミュニケーションが生まれ 人づくりにつながる展開

きららの里（宮妻町）では、10年間活動継続中。東京の昭和女子大学学園祭に招かれ活動発表（全国へ発信）。土とのふれ合い、人と人との交流の輪を大事に、もち米・野菜・果樹の栽培を通し、地産地消。楽しみながら、工夫をこらした食品づくりに挑戦。

自然体験村（水沢野田町）では、サツマイモ栽培を体験し、食べ物生産の大変さや大切さ、地元の農業や自然のすばらしさを再発見。農業体験のない町の人たち・地元の人たちみんな集まって！村には、村長・助役さんを配置、栽培・広報・事務担当と組織もしっかり確立。

水沢地区の人口　　総数……3,534人　男……1,704人　女……1,830人　世帯数……1,111世帯（17.10.1現在）

発行・編集　水沢地区社会教育福祉推進協議会文化広報部　平成17年10月

むらづくり活動と都市・農村交流を進める

地域の共同文化活動や共同環境活動を醸成させることで、地域内外の交流の受け入れ態勢を整え、本格的な交流活動を進める。都市と農村の交流実現のため農作業、地域の伝統行事、自然環境や生活環境の保全整備といった共同活動を通し地域住民で自主的活動をすすめ、併せて、地域住民の結びつきを深め、広がりを願っている。

自然・生活環境の保全活動に力を入れ、地域のまとまりを大事にしている姿。

地域のみどりや、水・植物・生物といった自然資源を意識しながら、住民自身による環境整備に取り組んでいる。また、地域の生産資源を有効に活用するため、地元の特産品開発といった経済活動やその後継者づくりに結びつく“村づくり活動”を期待している。

人と土、農作業で出会った地域づくりの輪

平成６年三重県快適農村プロジェクト活動対象地域として行政からの働きかけに応じて村づくりに取り組むことになった。

平成８年には宮妻町快適農村推進会が設立され、活動がより身近に感じられるようにとの発想から住民より募集した組織の愛称「きららの里」と名付け、様々な活動に取り組んできた。地域の将来構想について子供から、大人まで、各自の夢を取りまとめ作成した「夢マップ」を集落全戸に配布し、村づくりに関心をもつきっかけができた。

村づくりに一つの拠点（象徴）である地域住民との交流の場として位置付けされる「ふれあい農園」を提案し、集落の休耕田３アールを無償で借用し全員で農作物（もち米、野菜、果樹、花木）等を栽培。忙しい農作業の合間に、近所にいながらも余り話す機会のない人たちが作業を通じて交流を深めている。

住民30名程の活動ではあるが、宮妻地区へ戻り新居をかまえる若者が増えている事実は快適な農村である証ではないだろうか。

設立以来、10年歩み続けるなか、地域づくりの活動が認められ、農林水産大臣賞を受賞したのも住民が一体となって力を合わせ努力した結果である。今後も他地区との交流や異世代交流等、後継者づくりにつながる活動、地域を思い水沢を親しむ人づくりへと広げていければと願っている。

◀▲「ふれあい農園」にて

水沢ミニ情報

今年百歳になられました。おめでとうございます。

（平成十七年十一月五日現在）

鎌田　ふじゑ様（宮妻町）
清水　雪枝様（西條町）

コミュニケーションは運動会から

先日の地区運動会に参加されましたか。いかがでしたか。計画から当日まで、たくさんの方のお骨折りがあっての開催です。

計画の段階で、「なぜ地区運動会をするのか」という声もあるようです。

思いおこしてみると、子供が中学生になり、地区の運動会に参加しなくなったら、私も運動会へ行かない時期がありました。いわゆる、働きざかりの時期は、地区の行事に参加する足も遠のきがちでした。

数年前の話ですが、妻は水沢に嫁いで20年も過ぎたのに、ごみを置きにいったら、近くの老人に「あんたどこの嫁さんや」と尋ねられ自己紹介をしたそうです。勤めに出ていて地区の方に顔を知ってもらう機会がなかったと反省していました。

大災害が発生した場合、情報収集に二時間かかるため、公的機関の支援は不可能といわれています。阪神・淡路大震災で生き埋めや、建物、家具に閉じ込められた人のなかで自衛隊や救助隊に助けられたのは、わずか一・七％であったとの統計もあります。発生から二時間は、生きのびた者どうしで救出や応急手当をしなければなりません。つまり、頼れるのは、ご近所ということです。

水沢も兼業農家やサラリーマンが増え、生活様式も色々です。年代の異なる近所の方と知り合う機会は少ないのです。

しかし、地区運動会は水沢の幼児から高齢者の方まで老若男女が一同に集まる年一度の大切なイベントです。ご近所と一つのテントで一日を一緒に過ごすのは、とても意義のあることだと思いました。地区行事は、他にもいろいろあります。ぜひコミュニケーションづくりにきて下さい。

文化活動・人づくりに貢献された原　源司さん「源（もと）っさん」を偲んで

私が生まれる以前から水沢歴史・文化の発展に大きく貢献をしてこられ、また「お諏訪おどり保存会」を古くから盛り立てて、後進に対して熱心にご指導をいただいた「源っさん」。時に、近年子供部が参加するようになってから、歌の練習では小さな子どもにもわかりやすく、ていねいに教えられ、「さすが源っさん！」と脱帽する限りでした。毎年の水まつりでは、ダンディー（？）に浴衣を着こなして、自慢ののどを披露いただきました。また、保存会の活動だけでなく、明るい楽しい語り部として、私達の伝統芸能や文化の楽しさを教えてくださった源司さん。まさに『スーパーエンターティナー』という名に相応しく、さまざまな芸能に精通しておられました。特にすばらしいのは、いつも機転のきいた語り口でしたね。司会や歌（特に盆おどりでの江洲音頭）では、おもしろおかしく話題を取り上げ、聴く人見る人踊る人を楽しませてくれました。

そんな源司さんも今年に入ってから体調を崩され、3月には皆さんに惜しまれつつ、七十余歳の生涯を閉じられました。まだまだやりたいこと、伝えたいことは沢山おありであったかと察しますが、源司さんが育んでこられた水沢の伝統・文化の重みを今一度振り返り、その功績を無駄にすることのないよう地域を挙げて継承、発展させていくことが何よりの「供養」になるのではないでしょうか。

ご寄付ありがとうございました

水沢地区社会教育福祉推進協議会では、地区の方々から寄せられました寄付金を、社会を明るくする運動、町民運動会、地区文化祭、青少年の健全育成事業や地区の環境づくりなどに活用させていただいております。今後とも、「生活改善運動」にご協力いただきますようお願いします。平成十七年三月以降十七年十月末日までにご寄付いただきましたのは、次の方々です。

・川畠早也香様（水沢本町）
・伊藤　重久様（宮妻町）
・鎌田　右子様（西條町）
・樋口　一久様（水沢茶屋町）
・北谷　隆郎様（水沢本町）
・豊田　葉子様（西條町）
・須藤　勝見様（西條町）
・清水　邦彦様（四ッ谷町）